

粕谷観察日記 今年も沖縄や千葉では新米が収穫されました。8月1日、私が毎月野鳥の定期カウントしている高月水田の稲も穂が出て(題字写真下)、稲の花も咲きました(写真、白く出ているのがオシベです)。稲の葉を食べるイナゴが多数発生していて、そのイナゴを食べにダイサギ、アオサギも来ていました。新米が早く出回って米の値段が少しやすくなると安心しますね。

紅葉台



新聞

第197号
2025年
8月30日
発行 関谷孝

八王子に残る戦争の傷跡シリーズ

③大和田橋の焼夷弾跡



場所:大和田町の浅川に架かる橋
概要:八王子空襲で投下された M69 焼夷弾の痕が17箇所残っており、うち2箇所は透明板で保護されています。橋のたもとには説明番が設置されています。

④湯の花(いのはな)トンネル列車銃撃慰霊碑



場所:裏高尾町
概要:1945年8月5日、中央本線の列車が米軍機に銃撃され、52名が死亡。現地には慰霊碑があり、毎年慰霊の集いが行われています。2025年1月には新たに身元が判明した4名の犠牲者の名が刻まれました。

⑤陸軍幼年学校跡と建武台の碑

場所:長房町

概要:東京陸軍幼年学校が移転し、八王子空襲で全焼。跡地には建武台の碑が移築され、東幼観音が建立されています。

⑥甲州街道のイチョウ並木



場所:追分町交差点から千人町までのイチョウ並木
概要:秋には黄金色に輝くイチョウ並木。一部は八王子空襲による被害を受けた戦災樹木です。腐食防止のため保護されているものもあります。

❤️また、今年は8月15日(金)午前9時より市役所南側広場で被ばくに耐え、現在も生き続ける広島のアオギリと長崎のクスノキ。これらの種から育てた苗木を植樹します。戦争の悲惨さと平和の尊さ 戦争体験者の証言や遺構、資料館の展示から学ぶことで、平和の価値を実感できます。それは「二度と繰り返さない」という誓いの根幹です。戦跡から戦争の悲惨さを知る機会になることでしょう。

粕谷和夫の観察日記

ハナイカダです。普通の植物の花は茎から出ますが、ハナイカダは葉の中央から直接蕾が出て来て花が咲き実を結ぶという変わった植物です。葉を筏(いかだ)に見立て、その上に乗る花や実を筏の上に乗る人に見立てたもの。普通は山地の林内、林縁、沢筋でよく



紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしております。

見かけますが、この写真は7月14日JR八王子駅の直ぐ近くで撮ったものです。商店街を歩いていると蔵があり、蔵の横の路地を入って行ったらノリウツギが白い穂の花を咲かせ、ハナイカダの実が熟し小さな池にはメダカが泳いでいました。



7月21日、八王子・川町谷戸で7月の野鳥カウント、気温が上がる前の7時から9時の間に実施しました。鳥はウグイスとホトトギスのさえずりで賑やか。

ホトトギスは7月も終わるこの時期になっても未だ托卵相手のウグイスの巣を探しているのでしょうか。用水路の近くでイヌゴマの花がひっそりと咲いていました。この写真の花の真ん中を見て下さい。可愛い人形がぶら下がっているように見えたので思わずシャッターを切りました。なお、「イヌゴマ」の意味は「実の形が食用のゴマ(胡麻)に似るが、食用にならず役に立たない」です(「イヌ」は役立たないという意味)。

ママコノシリヌグイで、「継子の尻拭い」の意味です。棘だらけの茎や葉で憎い継子の尻をこの草で拭くというところから来ています。昔は「継子」がそんなに憎かったのか、今では想像できません。逆さ棘の茎や葉に対して花は小さく、白色と淡い紫色の花弁が綺麗で近寄ってみるとなんとも愛らしいです。7月21日、八王子の川町谷戸で撮影。



久しぶりに裏高尾の日影林道を歩きました(7月22日)。大型の

モンキアゲハ(写真左)が林道で吸水していました。この蝶は日本最大級で、後翅に黄白色の大きな斑紋があるので直ぐわかります。次から次へと現れて、その数は20匹以上、見事な光景でした。これとは別のチョウが1匹飛んできた、スミナガシ(写真右)でした。黒地に青緑色を帯びた独特の模様、そこにクロツグミのオスも1羽やってきました。しばし猛暑を忘れるひと時でした。